

「午後2時開演」

宮城道雄 作曲

越天楽変奏曲 (1928)

杵屋正邦 作曲

明鏡 (1975)

入野義朗 作曲

二つのファンタジー (1969)

諸井誠 作曲

有為転変 (1973)

高橋悠治 作曲

三絃散手 (1992)

三木露風 作詞

中能島欣一 作曲

斑鳩宮 (1988)

現代邦楽名曲選

創作の軌跡
令和5年6月
邦楽公演 6.10 土

武満徹 作曲

雅楽

秋庭歌 (1973)

佐藤聰明 作曲

海峡 (1996)

一柳慧 作曲

水の相对 (1989)

廣瀬量平 作曲

南溟晓歌 (1998)

間宮芳生 作曲

奥浄瑠璃

琵琶に磨白 (1997)

大岡信 撰歌

湯浅譲二 作曲

風姿行雲 (1988)

「午後5時開演」

本公演に関連し、現代邦楽を牽引してきた演奏家各位にインタビューを行います。
初演当時のエピソードや作曲家との思い出など、貴重な話題が盛りだくさんです。
(石垣清美、砂崎知子、田中之雄、田中悠美子、福永千恵子、三橋貴風、宮下伸、
宮田まゆみ、吉村七重 ほか)



インタビューの内容はこちらからご覧いただけます

特別インタビュー

6.10 土 午後2時開演 (午後4時終演予定)
午後5時開演 (午後7時15分終演予定)

- 予約開始 4月18日(火) 午前10時
- 観劇料(税込) 全席指定 6,000円 学生 4,200円 セット料金 11,000円
- 電話 国立劇場チケットセンター (午前10時～午後6時) 0570(07)9900 (一部IP電話等) 03(3230)3000
- インターネット 国立劇場チケットセンター 検索
- 窓口販売開始 4月19日(水) (チケット売場 午前10時～午後6時) ※窓口販売用に別枠でのお取り置きはございません。
- プレイガイド チケットぴあ <https://t.pia.jp/> e+ (イープラス) <https://eplus.jp/>



国立劇場託児室
料金 [0~1歳] 2,200円 / [2~12歳] 1,100円 (税込)
株式会社明日香 <https://www.g-asuka.co.jp/event-hoiku/>
0120(165)115 [受付時間] 平日午前9時～午後5時

伝統芸能を未来につなぐ くらごちゃんファンド(国立劇場基金)
～国立劇場各館の事業に 皆様のご支援をお願いいたします～
お問い合わせは ▶ 03(3265)6719 [くらごちゃんファンド](#) 検索

June 2023, Traditional Japanese Music Performance

CONTEMPORARY JAPANESE MUSIC MASTERPIECES

- Genealogy of Creation -

Since its opening, the National Theatre has provided a variety of performances focused on newly created musical pieces while still conveying the appeal of Japan's beloved classical pieces. This program features masterpieces selected from works commissioned and premiered by the National Theatre in the past (5 p.m. performance), while contrasting them with numerous great works that add color to the times (2 p.m. performance). This is a rare opportunity for so many works to be presented collectively; we invite you to enjoy this fresh array of great performances featuring our promising, talented musicians.

JUN. 10 (SAT)

2:00 P.M. - 4:00 P.M.

- "Etenraku Hensōkyoku"
- "Meikyō"
- "Two Fantasies"
- "Ui Tenpen"
- "Sangen Sanju"
- "Ikaruga no Miya"

5:00 P.M. - 7:15 P.M.

- Gagaku "In an Autumn Garden"
- "Kaikyō"
- "Relative to the Water"
- "Nanmei Gyōka"
- Tohoku Joruri "Biwa ni Surusu"
- "Fūshi Kōun" the Wind and Weather Clouds

* End times are estimates and may vary.

Venue National Theatre (Small Theatre)
4-1 Hayabusa-cho, Chiyoda-ku, Tokyo
(5 minutes walk from Hanzomon Station (Hanzomon Line))
TEL.03-3265-7411
URL.<https://www.ntj.jac.go.jp/en/theatre/nationaltheatre/>

Tickets (tax included) Adults : 6,000yen (Students : 4,200yen)
Set : 11,000yen

Booking Opens April 18 (Tue.), 10:00
Box Office
0570-07-9900 (From overseas: +81-3-3230-3000)
in Japanese and English (10:00 - 18:00)
https://ticket.ntj.jac.go.jp/top_e.htm

Counter Sales available from April 19 (Wed.), 10:00

現代邦楽名曲選 創作軌跡

国立劇場では開場以来、古典作品の魅力をお届けするとともに、新しく創作された音楽作品にも焦点を当て多彩な公演も実施してきました。本公演では、これまで委嘱初演された作品の中から選りすぐりの名作を特集し(5時開演)、時代を彩る名作の数々(2時開演)とともに楽しみいただけます。これほど多数の作品が一挙に上演される機会は滅多にありません。将来の飛躍が期待される実力者による瑞々しい演奏の数々、是非お楽しみください。



全出演者のプロフィールはこちらからご覧いただけます

午後5時開演 国立劇場委嘱作品より

午後2時開演

宮城道雄 作曲 越天楽変奏曲

[1928]

箏独奏 高島一郎
第一等 野口悦子、細川真紀、菊入智佳子、細井美歌
第二等 久松彩子、三宅礼子、関もなみ、板橋美季
十七絃 井関一博、吉原佐知子
胡弓 竹澤悦子
笙 真鍋尚之
尺八 田嶋謙一
フルート 高市紀子
打物 望月晴美、安倍真結、堅田紗都子

雅楽アンサンブル：邦楽器合奏の可能性

近代以降、西洋音楽を受容すると、邦楽にもオーケストラ様式の演奏形態が移入されました。その中で、日本古来の雅楽の合奏形態が着目され、代表曲「越天楽」を主題にした宮城道雄の傑作が誕生しました。



高島一郎 竹澤悦子 真鍋尚之 田嶋謙一 高市紀子 望月晴美

国立劇場は戦後、箏や尺八を中心とした創作活動の領域を、雅楽という古代の音楽にまで押し広げその発展を支えて来ました。とりわけ本曲では、雅楽が四季の巡りを司り、武満徹の代表作として知られています。



第31回特別企画公演「秋庭歌一具」舞台写真より(出演=伶楽舎)

[秋庭] 笙 中村華子
箏 鈴木絵理
龍 伊崎善之
高麗笛 角田真美
琵琶 野護元
箏 中田大悟
太鼓 八木千暁
鉦 笹本武志
鼓 北村茉莉子
[木魂] 笙 三浦礼美、東野珠実、五月女愛、石川高
箏 國本淑恵、中村仁美
龍 平井裕子、田口和美

武満徹 作曲 雅楽 秋庭歌

[1973] 国立劇場委嘱作品

杵屋正邦 作曲 明鏡

[1975]

尺八 神令
三絃 野澤徹也



神令 野澤徹也

伝統楽器の歴史や文化的背景へ想いを寄せると、東洋独特の音楽観が立ち現れてくることがあります。三味線奏者で作曲家の杵屋正邦は、尺八と三味線の二重奏によって、間の美学を追究しました。

長い年月をもって育まれた伝統的な音楽には、日常生活の規範や宗教的な倫理観が投影されています。佐藤聰明は、微かな音響にも耳を傾け、絶対的な無を聴き取る日本独自の音楽性を表現しました。



黒田鈴尊 寺井結子
©Ayane Shindo ©Ayane Shindo

尺八 黒田鈴尊
箏 寺井結子

佐藤聰明 作曲 海峡

[1996] 国立劇場委嘱作品

楽器の開発：戦後に生まれた伝統音楽

入野義朗 作曲 二つのファンタジー

[1969]

二十絃 平田紀子
十七絃 中島裕康



平田紀子 中島裕康
©Ayane Shindo ©Ayane Shindo

近世以前に確立した邦楽器も、時代の変遷とともに様々な改良が施され今日まで発展してきました。入野義朗は、箏曲家・野坂恵子が考案した二十絃箏の魅力を存分に発揮した、超絶技巧の難曲を作曲しました。

洋楽器に並ぶ新しい邦楽器の開発が進む一方、国立劇場では正倉院の遺物を手掛かりに古代以前の音楽を発掘する運動を展開しました。一柳慧は、復元された七絃琴・瑟で、独創性あふれる二重奏を表します。



吉澤延隆 木村麻耶
©MIKAGE

七絃琴 吉澤延隆
瑟 木村麻耶

一柳慧 作曲 水の相對

[1989] 国立劇場委嘱作品

諸井誠 作曲 有為転変

[1973]

箏・十七絃 中井智弥
尺八 長谷川将山
小鼓・大鼓 住田福十郎



中井智弥 長谷川将山 住田福十郎

邦楽器には、音の大小や高低のみならず、緩急強弱さまざまな表情が込められています。諸井誠は、伝統音楽に宿された緊張感に着想を得て、三者の力関係が抗争するパフォーマティブな作品を創造しました。

旋律やリズムが明快な洋楽に対して、邦楽は拍節感が薄く陰影のある印象が持たれることがあります。廣瀬量平は、伝統音楽ならではの厳肅性を保ちながらも、明るく色彩感豊かな新生面を開拓しました。



藤倉推峰 小濱明人 池上亜佐佳 會田瑞樹
©YumikoMiyahama

笛 藤倉推峰
尺八 小濱明人
十七絃 池上亜佐佳
打楽器 會田瑞樹

廣瀬量平 作曲 南溟曉歌

[1998] 国立劇場委嘱作品

高橋悠治 作曲 三絃散手

[1992]

三絃 本條秀慈郎



本條秀慈郎
©TAMAKI YOSHIDA

古典作品を継承する身体には、民族や各地域のなかで練々として継承された独特の型や固有の表現技法が存在します。高橋悠治は、三味線音楽の固有の手(旋律)を応用し、演奏者の傑出した技芸を表現しました。

楽器の演奏に限らず、歌や語りの中にも特有の身体性が刻まれています。全国津々浦々の民謡に関心を寄せた間宮芳生は、江戸時代の文学者・菅江真澄の日記を手掛かりに陸奥の浄瑠璃を表現しました。



松平敬 久保田晶子
©Lasp Inc.

語り 松平敬
琵琶 久保田晶子

間宮芳生 作曲 奥浄瑠璃 琵琶に磨白

[1997] 国立劇場委嘱作品

三木露風 作詞 中能島欣一 作曲 斑鳩宮

[1955]

唄男声 東音味見純、杵屋正一郎
唄女声 佐々木千香能、設楽千聡代、奥山益勢、武田博華
第一等 田中奈央一、伊藤ひろ、樋口千清代、上原真佐輝
第二等 花岡操聖、福田操明櫻、久野木史恵
十七絃 朝香麻美子、清野さおり
三味線 東音塚原勝利、東音高橋智久、東音阪本剛二郎
笙 八槻純子
尺八 清野樹盟

日本の伝統音楽が声楽中心であるのに対し、現代邦楽は器楽中心に発展しました。しかし中能島欣一は、古典らしさを尊重しつつも、歌・演奏の比重を巧みに配分した現代歌曲の名作を生みだしました。



東音味見純 佐々木千香能 田中奈央一 花岡操聖 朝香麻美子 東音塚原勝利

自然風物を人間が感じるのではなく、主客合一・相即相入することによって立ち現れて来る世界観があります。湯浅譲二は大岡信撰歌による歌に着想を得て、言葉・音楽の綾なす傑作を創作しました。



杵屋巳三郎 今藤政子 今藤長龍郎 山野安珠美 市川慎 福原寛
©ヒダキトモコ

唄 杵屋巳三郎、杵屋佐喜、今藤政子、萩岡松柯
三味線 今藤長龍郎
箏 山野安珠美、森梓紗
十七絃 市川慎、マクイーン時田深山
笛 福原寛
笙 大塚惇平
胡弓 木場大輔
尺八 元永拓、小湊昭尚
打楽器 篠田浩美、望月左太助

大岡信 撰歌 湯浅譲二 作曲 風姿行雲

[1988] 国立劇場委嘱作品